

ADPISA 2026年度 シラバス

■ 基本情報

科目名	情報×経営による価値創造デザイン	
科目番号	251	
担当講師	宮川裕之、皆木健男	
分類	選択	
科目総時間	22.5	
対面/OL日数	2日	

■ 科目の説明

	<p>情報システム学入門で獲得した「構造を見る・描く力」を、「価値を生む仕組みとして再設計する力」へと発展させる科目である。経営学的視点(戦略、ゲーム理論、ステークホルダー分析)と情報システムの構造設計(DIKS、ユースケース、DFD、ソシオテック・マトリクス)を統合し、「構想から構造への翻訳」を実践的に体験する。仮想のA大学(私立大学)をケースとして、学長直轄の戦略企画チームの立場から、ステークホルダーへのヒアリングを通じて構造仮説を検証し、戦略と整合する構造の再設計案を提案する。経営パート(皆木先生担当)との共同授業であり、「誰のための・何のための価値か」という問いを軸に、目的と構造を結びつける設計思考を養う。</p>
授業の概要	<p>経営戦略(Why:何を指すか)と情報システム構造(How:どう実現するか)を一体として設計する経験が得られることが最大の特色である。多くの現場ではこの2つが分離しがちだが、本科目ではケーススタディを通じて両者を「構想→意図→構造」という翻訳プロセスとして実践する。またAIチューターを活用した事前学習により、経営学の基礎概念やゲーム理論の用語を各自のペースで咀嚼した上で対面に臨むため、対面授業ではヒアリングや提案設計といった実践的活動に集中できる。さらに、構造仮説を立ててからヒアリングに臨む設計により、情報収集ではなく「構造の検証」としてのヒアリング力を養える。</p>
特色とメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム学入門で学んだ構造の視点(DIKS、ユースケース、DFD)を「価値創造」の観点から再構成して活用できる ・経営学的視点を用いて、組織の戦略的方向性(ミッション・ビジョンKPI)を構想できる ・構造仮説を立て、ヒアリングを通じて検証・修正するプロセスを実践できる ・「構想→意図→構造」の翻訳プロセスを理解し、戦略と整合する役割・流れ・責任の再設計案を構築できる ・AI配置を含む構造再設計の提案を、論理的に構成し説明できる
学習目標	「情報システム学入門」を修了していること。本科目は情報システム学入門で扱ったDIKS分類、ユースケース図、DFD、ソシオテック・マトリクス等の概念を前提として進行する。
受講の前提条件	

■ 学習設計(内容と時間の対応)

回	学習内容	時間(分)	種別	備考
1日目 事前学習	<p>(1) 経営学的視点の基礎概念(75分・資料読解+AIチューター) ・営利組織・非営利組織の問題構造、戦略の基本的な考え方を皆木先生提供の資料で学習する ・AIチューターとの対話で、概念を自組織の文脈に引き寄せて理解を確認する</p> <p>(2) ゲーム理論の基礎用語(45分・資料読解+AIチューター) ・ナッシュ均衡等の基本概念を資料で学習しAIチューターとの対話で意味と使いどころを確認する</p> <p>(3) ケース資料の読解・ステークホルダー構造の把握(75分・資料読解) ・A大学の基本情報、経営課題、競合環境、ヒアリング対象者6名の立場と関心領域を把握する ・「誰が何を見て、何を恐れているか」を自分なりに整理する</p> <p>(4) 構造仮説ワーク【個人課題】(75分・AIチューター) ・ケース資料をもとにA大学の業務または課題を1つ選び、情報システム学入門で学んだ手法(DIKS分類、構造の3要素:役割・流れ・責任)を用いて、現状の構造仮説を個人で作成する ・AIチューターとの対話で構造上のズレや曖昧な点を洗い出し、「ヒアリングで何を確認すべきか」を問いの形で整理する</p>	270	AIチューター	
1日目	<p>午前: ・経営学的視点からの事例解説(60分・皆木先生) 事前学習で学んだ基礎概念を前提に、問題解決事例の対話的深掘りを行う ・グループ編成・構造仮説の統合(60分・宮川) 各自の構造仮説をグループ内で共有・比較し、グループとしての仮説とヒアリング項目を設計する ・ケース説明補足・ヒアリングの進め方(60分・宮川)</p> <p>午後: ・第1回ヒアリング(150分・宮川、皆木) ステークホルダー6名へのヒアリングを通じて構造仮説を検証する ・ヒアリング結果の初期整理・気づきシート記入(60分)</p>	360	対面	
1日目 事後学習	<p>(1) ヒアリング結果の構造分析・仮説修正(60分・AIチューター) ・ヒアリングで得た情報を「役割・流れ・責任」の枠組みで整理し直す ・事前に立てた構造仮説のどこが確認され、どこが覆されたかを言語化する</p> <p>(2) 戦略方向性の整理(45分・AIチューター) ・A大学のミッション・ビジョン案、重点目標(KPI)の方向性をグループとしてAIチューターとの対話で練る ・経営パートで学んだフレーム(戦略マップ等)との接続を意識する</p> <p>(3) 第2回ヒアリングの質問設計(45分・AIチューター) ・第1回で確認できなかった構造的論点、特に「誰が判断し、誰が責任を持つか」に関わる問いを設計する ・AIチューターに想定回答を出させ、質問の切れ味を事前に検証する</p>	150		

2日目 事前学習	<p>(1)提案骨子の構築(90分・AIチューター＋非同期議論) ・戦略仮説(ミッション・ビジョン・KPI)と構造再設計案(ユースケース図・DIKS整理表・役割/流れ/責任の構造表・AI配置案)の骨子をグループで構築する ・非同期議論(Slack等)で素材を持ち寄り、提案の方向性を合意する (2)提案骨子のストレステスト(45分・AIチューター) ・AIチューターに反論役を担わせ、「その構造で本当に戦略が実現できるか」「AI配置の根拠は何か」「役割と責任の不整合はないか」を検証する (3)発表資料の骨格作成(45分) ・成果物5点(ミッション・ビジョン+KPI+構造モデル+DIKS整理表+AI配置案)の構成を決め、スライドの骨格を作成する (4)自組織への適用の振り返り(30分・AIチューター) ・ケースで扱った「構想から構造への翻訳」の視点を、自組織のDX課題に引き寄せて言語化する ・ADPISAの後続科目での学びに向けた問いを整理する</p>	210		
2日目	<p>午前: ・第2回ヒアリング(120分・宮川、皆木) 事前設計した質問で構造仮説の最終検証を行い、提案の具体化に必要な情報を収集する ・提案の詰め・構造モデルの最終化(60分) 午後: ・発表資料の仕上げ(60分) ・グループ発表＋相互レビュー(90分) 評価観点:目的と構造の整合性、役割・流れ・責任の明確さ、情報・知識の扱いの質(DIKS)、AI配置の意図 ・講師講評・全体のまとめ・気づきシート記入(80分)</p>	360	対面	
2日目 事後学習	なし	0		
合計		1350		

■参考文献

参考文献・ オンライン科目	<p>・情報システム学へのいざないー人間活動と情報技術の調和を求めて、浦昭二他、培風館(1998) ・A大学ケーススタディ資料(講師配布) ・皆木先生提供の経営学講義資料 AIチューター知識ベースとして活用)</p>
------------------	--